

山と花のたより 154号

2012年8月12日 松尾忠

メールアドレス tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com

高校地学部同期生登山

東北花の山めぐり

昨年大震災により、お流れとなった東北花の山めぐり、今年は「山登りも支援のひとつ」と謳って計画を実行することとなった。

岩手山・北斜面の焼走り

航空便や新幹線で盛岡に集まった7人の仲間たち。7月9日レンタカーで岩手山北麓の焼走りキャンプ場へ。

ここからの登山道は黒い熔岩流のふちを辿りながら上っていく。

私の企画がやや

温泉「焼走りの湯」と岩手山

杜撰で、予定の時刻にはお目当てのコマクサ大群落には着かず、樹林帯を抜けてコマクサが現れ始めた所で昼食。花はコマクサの他にミヤマハンショウヅルが濃紫褐色の花を吊り下げており、ハクサンチドリ、ベニバナイチヤクソウ、ゴゼンタチバナ、マイヅルソウなどが咲いていた。

八幡平は雨風で断念

焼走りの歩きにくい道を予定の二倍近く歩いて、一同お疲れ気味。八幡平山頂駐車場に着いた時は強い吹き降りで、一同一も二も無くパス。こうしてあっさりと後退・退却するのが若い時とは違う特徴。しかしこの「日和見的选择」こそ賢明であったことがすぐに証明される。宝仙湖付近から森吉へ抜ける道が通行止めなのだ。

やむなく田沢湖まで南下し、R105を北上して打当(うっとう)温泉

下ミヤマハンショウヅル 泉マタギの湯に着いたのは午後6時を回って

いた。

ベニバナイチヤクソウ↑

花咲く高原台地=森吉山

マタギの湯は感じの良い宿だった。温泉で身体を癒した一行は、7月10日8時には宿を出立、森吉山へと向かった。

森吉山の阿仁ゴンドラは15分間も空中を移動する。しかも直線的でなく、山の起伏にそって波状的に昇っていくのである。眼下には豊かな森がひろがり、大自然を鳥瞰(ちょうかん)しながらの「浮



遊」はなかなかのもの。紅葉、新緑の頃は尚更素晴らしいだろう。

眺望を楽しんでゴンドラを降りると、そこから花の道行きが始まる。ハクサンチドリ、ウラジロヨウラク、アカモノ、チングルマ、ゴゼンタチバナ、ツマトリソウ、マルバシモツケ、コイワカガミ、イワイチョウ、ニッコウキスゲなどなど。



ハクサンチドリ

将にお花畑の続く高原台地なのだ。カッコウの声が響いてくる。

森吉山山頂で昼食。ガスがうっすらとかかって展望はあと一つだが、風が吹き抜けて格好の休憩場所。仲間たちが登頂できたことを喜び合い、互いに評価しあっている。これも高齢者登山の特徴といえるかも。しかし、なんと言っても今年71歳の人達なのだ、多少の自画自賛は大目に見てもらふことにしよう。

景色と花を楽しみながら、ゆっくり下り、レンタカーでR105を南下して角館の武家屋敷街に入った。

仙北市角館は江戸時代秋田藩（久保田藩）藩主の一族である佐竹北家の城下町で、当時の武家屋敷街の趣を残しているところとして知られている。

私たちが見学したのは石黒家邸宅であった。石黒家は佐竹北家の高級武士で勘定方を務めるなど財政を担当したそうだが、養蚕など産業にも直接関わって財を成したとあり、家塾を開き、江戸末期には蘭方医も出したとあるから、進取の家系だったのだろう。展示物にはそうした積極的家風が現れていた。

一方、家屋は正玄関と脇玄関とを来客の身分によって使い分けたとあり、陪臣ゆえの家屋規模の制限もうけているなど、封建社会の身分制度の厳しさも教えていて興味深かった。



←アカモノ
ピンクはヨツバシオガマー
↓オオバクスマレ



上 ウラジロヨウラク



上 森吉山山頂



上 ゴゼンタチバナ

